



みやエコっ子通信

20号



発行：宇都宮市
環境政策課

TEL632-2417

学校版環境 | SOの取得に向けた各学校の取組について紹介します。

宇都宮海星女子学院中学校

発行月：平成27年12月
新規取組校特集号

宇都宮海星女子学院中学校では、中高一貫校であることを生かし、同じ校舎で学ぶ高校生の先輩方と環境について考え、一緒に取り組みを行っています。

例えば、校内のゴミの分別や資源回収、花壇整備の実施、生徒会での高校生の先輩方との意見交換など、全校生徒で一丸となって取り組んでいます。節電については、消灯を忘れないように、スイッチの近くに設置ができる小さなポスターを作製し、校内に貼っています。



校内の資源回収



消灯を呼びかけるポスター



地域清掃ボランティア



野菜の苗植え



サツマイモのつるを使ったクリスマスリース作り



収穫作業



11月、12月には福祉施設の清掃活動や学校周辺、鬼怒川河川敷のごみ拾いなどの奉仕活動に力を入れています。

また、今年度は、全校生徒で育てたサツマイモのつるを、そのままにしておくのは「もったいない」と思い、クリスマスリースに活用するため、収穫後すぐに成形し乾燥させました。出来上がったリースは、近くの福祉施設などにプレゼントする予定です。



「もったいない運動」コラム

佐藤宇都宮市長 & 元ブラジル環境大臣 マリナ・シルバさん
「もったいない運動」について対談 (毎日新聞東京本社)



アマゾンの熱帯雨林保全で世界的な環境保護活動家のマリナ・シルバさんと「もったいない運動」を推進している本市の佐藤市長が、10月に毎日新聞東京本社で対談しました。

対談では、シルバさんから、本市で推進している「ひと・もの・まち」を大切にする、「もったいない運動」の取り組みについて「リデュース(減量)・リユース(再利用)・リサイクル(再生利用)・リスペクト(尊敬)の4つのRが集約された素晴らしい取組」と評価を受けました。

皆さんが、毎日取り組んでいることが、世界で活躍されている方に認められたなんて、とてもうれしいことですね。

これからも、引き続き、「もったいない運動」が学校だけでなく家庭や地域そして、世界にも広がるよう、みんなで取り組んで行きましょう！



＜みんな知ってる？＞

マリナ・シルバさんってどんな人？～>

1958年ブラジルアマゾンの奥地で出生、16歳から読み書きを学び始める。

2003年ブラジルの環境大臣に就任

☆ アマゾンの熱帯雨林の保護

☆ アマゾン基金の創設 など

2009年国際的な環境賞である

「ソフィー賞」を受賞

～現在環境保護活動家として活躍中～